

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年6月23日(2016.6.23)

【公表番号】特表2015-516257(P2015-516257A)

【公表日】平成27年6月11日(2015.6.11)

【年通号数】公開・登録公報2015-038

【出願番号】特願2015-512157(P2015-512157)

【国際特許分類】

A 6 1 M 16/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 16/06 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月28日(2016.4.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者インターフェースデバイス用のクッションであって、

第 1 の平面にある下縁と、前記下縁の反対側に位置付けられ、前記患者インターフェースデバイスがユーザによって着用されると、ユーザの顔に係合する係合縁とを有する支持部と、

前記支持部の前記係合縁の内側縁から内側に、前記クッションの長手軸に向かってカンチレバー状に延在するシーリングフラップと、

を含み、

前記係合縁は、前記第 1 の平面に平行な第 2 の平面に対し、 -30 度以上、 $+30$ 度以下の角度で延在し、

前記シーリングフラップが前記支持部に接続される位置にある前記シーリングフラップの近位端から、前記シーリングフラップがオリフィスを画定する位置にある前記シーリングフラップの遠位端まで測定した前記シーリングフラップの長さは、 15 mm 以下である、クッション。

【請求項 2】

前記シーリングフラップの近位端から前記シーリングフラップの遠位端まで測定した前記シーリングフラップの長さは、 5 mm 以下である、請求項 1 に記載のクッション。

【請求項 3】

前記係合縁は、実質的に平らである、請求項 1 に記載のクッション。

【請求項 4】

前記支持部は、ショア 00 スケールで 00 乃至 60 のデュロメータ硬度を有する材料で作られ、 2 mm 乃至 15 mm の厚さを有する、請求項 1 に記載のクッション。

【請求項 5】

前記シーリングフラップは、 0.20 mm 乃至 2 mm の厚さを有する、請求項 1 に記載のクッション。

【請求項 6】

前記シーリングフラップは、 0.20 mm 乃至 0.40 mm の厚さを有する、請求項 5 に記載のクッション。

【請求項 7】

前記シーリングフラップは、ショア 00 スケールで 00 乃至 60 のデュロメータ硬度と、約 500 乃至 1500 % の伸び率とを有する材料で作られている、請求項 6 に記載のクッション。

【請求項 8】

前記クッションは、下部領域、前記下部領域の反対側に位置付けられている頂部領域、第 1 の側領域及び前記第 1 の側領域の反対側に位置付けられている第 2 の側領域を含む略三角形の形状を有し、前記支持部及び前記シーリングフラップは、少なくとも、前記下部領域の長さに沿って設けられている、請求項 1 に記載のクッション。

【請求項 9】

前記支持部及び前記シーリングフラップは、前記下部領域の長さに沿って、並びに、前記第 1 の側領域及び前記第 2 の側領域の長さの少なくとも一部に沿って設けられているが、前記頂部領域に沿っては設けられていない、請求項 8 に記載のクッション。

【請求項 10】

前記支持部及び前記シーリングフラップは、前記下部領域の長さに沿ってのみ設けられ、前記頂部領域、前記第 1 の側領域及び前記第 2 の側領域は、第 2 の支持部及び第 2 のシーリングフラップを含み、前記第 2 の支持部は、前記第 2 のシーリングフラップの内側に位置付けられている、請求項 8 に記載のクッション。

【請求項 11】

患者インターフェースデバイス用のクッションであって、

第 1 の縁、前記第 1 の縁の反対側に位置付けられている第 2 の縁、及び、前記第 2 の縁の外側縁から外側に、前記クッションの長手軸から離れる方向に延在するカンチレバー部を有する支持部と、

前記支持部の前記第 2 の縁の内側縁から内側に、前記クッションの前記長手軸に向かってカンチレバー状に延在するシーリングフラップと、

を含み、

前記カンチレバー部及び前記第 2 の縁は、前記患者インターフェースデバイスがユーザによって着用されると、ユーザの顔に係合する、クッション。

【請求項 12】

前記シーリングフラップの近位端から前記シーリングフラップの遠位端まで測定した前記シーリングフラップの長さは、15 mm 以下である、請求項 11 に記載のクッション。

【請求項 13】

前記シーリングフラップの近位端から前記シーリングフラップの遠位端まで測定した前記シーリングフラップの長さは、5 mm 以下である、請求項 12 に記載のクッション。

【請求項 14】

前記支持部は、ショア 00 スケールで 40 乃至 90 のデュロメータ硬度を有する材料で作られ、1 mm 乃至 6 mm の厚さを有する、請求項 11 に記載のクッション。

【請求項 15】

前記シーリングフラップは、0.20 mm 乃至 2 mm の厚さを有する、請求項 11 に記載のクッション。

【請求項 16】

前記シーリングフラップは、0.20 mm 乃至 0.40 mm の厚さを有する、請求項 15 に記載のクッション。

【請求項 17】

前記シーリングフラップは、ショア 00 スケールで 00 乃至 60 のデュロメータ硬度と、約 500 乃至 1500 % の伸び率とを有する材料で作られている、請求項 16 に記載のクッション。

【請求項 18】

前記クッションは、下部領域、前記下部領域の反対側に位置付けられている頂部領域、第 1 の側領域及び前記第 1 の側領域の反対側に位置付けられている第 2 の側領域を含む略三角形の形状を有し、前記支持部及び前記シーリングフラップは、少なくとも、前記下部

領域の長さに沿って設けられている、請求項 1 1 に記載のクッション。

【請求項 1 9】

前記支持部及び前記シーリングフラップは、前記下部領域の長さに沿って、並びに、前記第 1 の側領域及び前記第 2 の側領域の長さの少なくとも一部に沿って設けられているが、前記頂部領域に沿っては設けられていない、請求項 1 8 に記載のクッション。

【請求項 2 0】

前記第 1 の縁は、第 1 の平面にあり、前記カンチレバー部は、前記第 1 の平面に平行な第 2 の平面に対し、 -30 度以上、 $+30$ 度以下の角度で延在する、請求項 1 1 に記載のクッション。

【請求項 2 1】

前記カンチレバー部は、実質的に平らである、請求項 2 0 に記載のクッション。